



IUFRO-J NEWS

No. 51 (1994.3)

就任にあたって

IUFRO-J 議長 小林 一三

昨年10月1日に勝田前議長の森林総合研究所ご退官にともない、個別ではございましたが幹事機関のご了承をいただいて、IUFRO-Jの会務を継続してまいりました。そして本年4月5日に東京農工大学で開催される機関代表会議において正式にご承認いただき、議長をお引き受けすることになりましたので、よろしくお願ひ申し上げます。

地球的な規模で森林の大切さが認識され、森林を対象とした研究が今日ほど盛んな時代はなかったでしょう。それとともに、森林・林業に関するさまざまな国際会議も以前よりも頻りに開催されるようになりました。林業と森林に関する世界最大の研究組織であり、1992年に

100年記念式典をすませたユフロにとって、来年8月のフィンランドにおける第20回ユフロ世界大会は、新たな国際情勢のもとでユフロがどのような役割をはたすべきかの戦略をきめる大切な会議となるでしょう。このような背景のもとに今年も森林・林業・林産業に関するいくつかの国際会議が予定されています。わが国の研究者がこのような場で一層活躍できるように微力を尽くしたいと念じております。

終わりになりましたが、本会の運営に2年余にわたって格段のご尽力をいただいた勝田前議長に心からお礼を申し上げるとともに、今後とも会員の皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

退任のご挨拶

前議長 勝田 柁

このたび、IUFRO-Jの議長を退任いたしました。在任中、ユフロ100年記念大会を始め、世界各地で開催された多くの研究集会の情報を、ユフロ-Jニュースでお伝えしてまいりました。最近、国際的なシンポジウムなど海外交流の機会が増えておりますが、国内で開催されるユフロの研究集会はまだ少ないように思います。IUFRO-Jの会員の皆様の今後のご努力とご活躍を期待

しております。

また、昨年春、機関代表会議でご承認いただき、ユフロ-JからIUFRO Development Fundへさきやかながら拠出をすることができましたことを嬉しく思っております。ユフロ-Jの会員の皆様の長い間のご支援と、ご協力に心からお礼を申し上げますとともに、皆様の今後のご発展をお祈り申し上げます。

サレー会長からの礼状

IUFRO Development Fund への拠出については IUFRO-J News No. 50 で報告しましたが、このことについてサレー会長より礼状が届きましたので掲載いたします。(事務局)

1993年9月19日

勝田 征 様

IUFRO.

M.N. サレー



(Dr. M. N. Salleh)
President IUFRO

ユフロ-J から私どもの IUFRO Development Fund に 10,000 ドルをご寄付いただいた由をうかがいました。ユフロを代表してこのご好意に対し厚くお礼を申し上げます。このご寄付はこの基金の目的を達成するのにおおいに役に立ちます。

私たちは 今後ユフロ-J との連携を強めることに期待しております。一つの方法はユフロ-J が日本におけるユフロの 1 支部を形成することです。このことは公式にも当然のことと受け取られることでしょう。ユフロ理事会は基本的に支部の設立に賛同して来ておりますので、もしある国や地域に支部を創設する希望があれば異存はありません。私はユフロ-J のメンバーが理事の 1 人である佐々木恵彦氏とこのことについて論議されることを希望いたします。(訳: 丸山明雄)

「熱帯林の成長」に関するユフロ国際シンポジウムの開催のお知らせ

東京農工大学 木平 勇吉

ユフロ第 4 部会、森林計画学会、アメリカ熱帯林協会が共催する国際シンポジウムが東京で開催されます。研究発表および参加者を国内外から現在募っています。希望される方は下記事務局まで連絡いただければ開催案内書をお届けします。

日 時 1994年9月27日～10月1日

場 所 東京農工大学

申込先 〒183 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学農学部 木平勇吉

Tel. 0423-64-3311 Fax. 0423-64-7812

本シンポジウムの目的は次の 5 項目です。

(1) 天然林、人工林を含めて熱帯林の成長、収穫、経営、環境にかかわる研究者が会して、(2) 現在までに得られた知識の水準を評価します。(3) また、プログラム、データベース、モデルなどの方法論に関する情報を交換して、(4) 今後の研究の必要性和、その発展を促進します。(5) そして、熱帯林の成長と収穫に関する情報をユフロの開発途上国特別委員会が開発している熱帯林データベースへ提供することです。

熱帯林の研究と調査の経験をお持ちの方、熱帯林問題に関心のある方の参加をお待ちします。これは 1988 年マレーシアのクアラルンプールで開催された国際シンポジウムを引き継ぐもので現在、多くの参加申込みが外国から来ています。研究発表プログラムは内外の参加申込み者に合せて調整中です。

IUFRO S1 02-00 リーダーから至急の連絡がありました。期限の過ぎている部分もありますが、内容の概略を折込みにしましたので、関係する方々は至急対応して下さい。(事務局)

IUFRO-SPDC, BIO-REFOR (熱帯林再生研究者連合) ワークショップに参加して

森林総合研究所 石井克明・桜井尚武
東京大学 鈴木和夫

まえがき

1993年9月20日より23日まで、インドネシアのジョグジャカルタ市にあるガジャマダ大学にて、バイオ・リフォールワークショップが開催された。前回つくば市でのワークショップまでの経緯については、小林らが熱帯林業25号に、河原がIUFRO-J NEWS No. 46に記している。今回は、バイオ・リフォールのアカデミックな活動の一環としてのワークショップの事務局を、東京大学農学部森林植物学研究室に置き、インドネシア側では、ガジャマダ大学がホスト役となって精力的に開催までの準備にあたった。その甲斐あってか、会議は、インドネシア国林業大臣が参加する等、参加者150名を越す盛会であった。ここに、簡単に報告する。

ワークショップ

21日の開会式は、コーディネータ役の東大農学部の鈴木、ローカル・コーディネーター役のガジャマダ大農学部の Suhardi 氏、バイオ・リフォール理事の関西総合環境センター小川真氏と国際科学振興財団の今村和夫氏、ガジャマダ大学長 Mochamad Adnan 氏、ジョグジャカルタ市長の、Sri Paduka Paku Alam VIII 氏(代理)、インドネシア国林業大臣の Jamaluddin Suryohadikusumo 氏らの挨拶があった(写真-1)。その後の基調講演には、Perum Perhutani の Wartono

Kadri 氏が、インドネシア森林委員会議長 M. Hasan 氏の「国際協調による持続的森林発展」を代読、Z. Cotto 氏がカリマンタンのフタバガキ科林について「持続可能な森林の利用と保全」を講演した。同じく、シンガポール大学の A.N. Rao 教授が「熱帯林樹木の増殖-概観」を、エジンバラ大学陸圏生態研究所の R. Leaky 氏が「熱帯林の再生の為の無性繁殖技術と菌根菌の役割」と題して基調講演を行い、CIFOR の C. Cossaltor 氏も熱帯林の現状と CGIAR 傘下に新たに新設された CIFOR について報告した。

午後から翌日にかけては、(1)人工造林 (2)増殖 (3)菌根菌の3つの部会に分かれて研究発表が学内の会館で行われた(写真-2)。ここでは発表と演題を記すことにする。

(1) 人工造林

タイにおける人工造林の展開 (J. Luangjame)、東カリマンタンの人工造林の概観 (M. Sutisna ら)、東カリマンタン・スプル地区でのフタバガキ科の植栽実験 (Sunyoto)、マレーシアにおける複層林造成について (M. Iwasa)、東カリマンタンでの択伐が森林生態系に与える影響と植林試験 (Y. Okimori)、フタバガキ科樹種の大規模エンリッチメント植林-方法と予報 (P.M. Costa)、林野における種々の光環境に対するフタバガキ科実生の成長反応 (K. Matsune)、再生促進のためのマ



写真-1 開会式



写真-2 大会会館の前で

レーシア・サバの多雨林における丸太集材土場と集材路の取り扱い (R. Nussbaum ら), インドネシアにおける人工林造成と生物的多様性の保護 (S. Hadi), フタバガキ科樹種の水分条件 (D. Hadrianto), 低地での *Pinus merkusii* 植栽の必要性 (E.B. Hardiyanto), 野生鳥獣資源: 森林造成/再造林の産物として (Djuwantoko), リアン・キワでの丘陵草地の林分単位 (A. Sagala), 環境問題という側面のみた熱帯の人工林と天然林 (Soemitro), *Pinus merkusii* による産業造林 (HTI) における樹種立地適性の研究 (I. Soerianegara)。

(2) 増殖

実生採種園の最適設計に関する予備的研究 (S. Kurinobu), インドネシアにおける *Paraserianthes falcataria* のアイソザイム変異の予備的解析 (K. Seido), *Cinnamomum kanehirae* の無性繁殖技術-体系的取り組み- (H. Chung), 熱帯林樹木の増殖のための人工種子技術 (K. Ishii ら), フィリピンにおける組織培養によるフタバガキ科樹種の増殖 (R.E. dela Cruz), フタバガキ科樹種のマイクロプロパゲーション (Y. Yamamoto), マレーシア・サラワクにおける泥炭湿地林樹種の挿し木生産の研究 (Y. Uchimura), 耐酸性クローン育種のための熱帯アカシア類の組織・細胞培養学の確立 (Y. Ide), フタバガキ科樹種の組織培養と試験管内挿し木 (V.L. Min), 茅挿しと組織培養技術による商業的に重要な熱帯樹種の無性繁殖 (D. Ahmad), 熱帯性マツのための組織培養技術 (S. Halos), インドネシアにおける *Pinus merkusii* の林木育種 (O.H. Soeseno), フタバガキ科の増殖-将来予測- (W. Smits)。

(3) 菌根菌

アジア太平洋地域における菌根研究 (R.E. dela Cruz), タイにおける外生菌根菌-過去, 現在, 将来展望 (U. Sangwanit), 東カリマンタン・フタバガキ林の外生菌根 (I. Yasman), フィリピンのマツ林及びフタバガキ林の外生菌根 (J. Zarate), インドネシアにおける森林再生のための内生菌根菌施用 (Y. Setiadi), *Shorea memisopteric* への *Scleroderma* 菌施用と肥料効果 (Supriyanto), フタバガキ科実生への菌根菌接種 (R. Soda), 伐採後地の *Shorea parvifolia* の菌根形成 (J. Kikuchi), フタバガキ科樹木の成長に対する炭と初級炭の施用効果-東カリマンタンにおける菌根形成- (S. Mori), ブキット・スハルトにおける炭及び糞施用後の *Shorea leprosula* の菌根形成と成長 (Suhardi)。

22日の閉会式では, ガジャマダ大学の Suhardi 氏による各研究部会のまとめがあり, 聖学院大学の村上公久氏から, 昨年の招待講演者の一人であった FORSPA の

Y.S. Rao 氏の不慮の事故死への弔慰が述べられ, バイオ・リフォルの現状等の説明があった。

これより先, 21日の夜には, ガジャマダ大学農学部長の主催の晩餐会ということで参加者全員が学内の一隅にある WISMA KAGAMA ホールに招待され, 伝統音楽や舞踊を楽しんだ。大学らしくガムラン音楽の楽士を始め, バリ舞踊やジャワ舞踊の舞手が皆, 学生のボランティアであった。翌22日は, 今度はバイオ・リフィル主催の晩餐会があり, ワークショップ会場よりバスで30分程の所にある有名なヒンズー寺院のプランバナン寺院内の Trimurti 劇場で, 食事とラマヤナの観劇があった。そこでは日本語の劇解説文も配られ, 2時間近くのみらびやかな一大叙事詩の世界がよく理解できた。

エクスカージョン

23日は, 1966年に設定された, ガジャマダ大学から36 Km 南東に位置するワナガマ演習林を見学するエクスカージョンがもたれバスに分乗して出かけた。筑波大学に昨年まで留学していた, ガジャマダ大の Na'iem 氏が炎天下で説明してくれた。ここは約600 ha が林学部 に所属している。敷地内には200人が宿泊できる研修施設があった。もともとチークの植林が行われていたところだったが, 日本占領期(1942-1945)と, 続く独立戦争期(1945-1950)に乱伐され土地が荒れた。現在は林学部の努力により, ユーカリやアカシアの産地試験林や試験林が広がり, よく整備されている(写真-3)。Acacia mangium, Eucalyptus urophylla, E. urophylla × alba, Melaleuca, Santalum 等の10年生前後の林を多く見せてもらった。苗畑では, *Gnetum gnemon* や *Shorea* 属の苗木が見られ, 菌根菌接種試験も行われていた。この日がワークショップ参加者達の最後の集いとなったのでお昼は, エレクトーン伴奏付きで歌も飛びだすなど, な



写真-3 ワナガマ演習林のユーカリ試験林

ごやかな空気に包まれた。今回、ガジャマダ大学が、Suhardi 氏を中心としてワークショップ運営に全面的に協力してくれたおかげで、会議は大成功だった。

あとがき

Bio-Refor の3回目のワークショップは成功裡に終了

したが、今後も引き続きこのようなワークショップが開催され、熱帯林再生研究が進展することを期待したい。今回のワークショップの開催に協力して頂いた関係省庁及び RETROF の香山氏はじめ多くの方々にも一方ならぬ御尽力をいただいたことを、感謝する。

第二十九回 IUFRO 理事会報告

東京大学 佐々木 恵 彦

年の暮れ12月の6日から10日まで、アフリカのブルキナ・ファソの首都オウガドグウにおいて開催された第二十九回 IUFRO 理事会に出席しました。

理事会の報告の前に、まず、ブルキナ・ファソについて説明した方が良いでしょう。筆者自身、理事会の開催国の名前を聞いたときに、一度では覚えられず、何回か地図を見て、やっとどこにあるかを覚えたようなところです。しかも、古い地図には、アッパー・ボルタと言う国名になっていますし、その首都の名前は非常に読み難く、Ouagadougou をオウガドグウとは読めませんでした。この国はニジェールの南、象牙海岸の東側の内陸に位置し、サブサハラ地域に属しています。

入国にはビザが必要ですが、日本には大使館がありません。研究室の学生が面白がって、色々調べてくれました。外務省に電話して、どこに大使館があるかと訊ねましたら、フランスと中国にはあるとのことでした。忙しいのに、中国かフランス経由で、ビザを貰うわけにも行かず、思案の末、アフリカ協会があるのを電話帳で知り、電話をかけてみました。もしかすると、日本にあるフランス大使館でブルキナ・ファソのビザを交付するかもしれないという情報が入り、さっそくフランス大使館に電話しました。大使館員の話では、帰りの航空券または、滞在費と帰りの費用を払うことができる預金証明を持ってくれば、ビザを交付するとのことでした。昔のアメリカのような時代的な手続きで、驚きました。誰が密入国をするのかとも思いましたが、どの国でも、国の体面上、同じ発想をするのかもしれませんが。フランス大使館ではブルキナ・ファソのほか、トーゴのビザも出すそうです。さすが、旧宗主国です。西アフリカの国では、フランス語しか通用しないのも当然かもしれません。

オウガドグウに行くには、まず、パリまで行き、パリで飛行機を乗り換えます。東京からパリまで、12時間、

パリからオウガドグウまで5時間半、パリでの待ち合わせ時間が7時間(帰りは8時間の待ち合わせ)あります。成田出発からオウガドグウ到着まで、一日以上かかります。フランス航空しか便がないので、全く不便なところです。しかし、パリの空港で長時間待った後、ゲートに行ってみると、IUFRO 理事会のメンバーが7人も待っていたので、これで迷子にならないですむと、安心した次第です。なにしろ、どこで会議をするのか、会議場の名称とか主催する機関などは知らされていませんでした。このあたりがアフリカらしいところです。これだけ大人数で到着すれば、何とか成るだろうというのが、昔の考えでした。今回は、ほんとうに大人数で一緒に到着したことがよかったと思います。前回、ポーランドでの理事会では、妻と二人で会議の始まる日の朝に着いたのですが、迎えに来るはずなのに誰も居ず、ホテルに着いても、誰も居ないと大変困ったことがあります。しかし、ワルシャワは歴史的な町ですので、妻と二人で街の見物に出かけましたら、途中で、みんなと出会うという幸運に恵まれました。こんなことは、外国ではいちいち目くらまらを立てても、仕方のないことですが、今回だけは、大勢一緒に居て本当によかったと思います。

もう一つの問題は予防注射です。この地域は黄熱病の予防注射が必要なことが分かったのですが、つい忙しさに忘れて出国してしまい、オウガドグウの空港でしばらく汗をかきました。もし、空港で注射をされたらどうしようか、一瞬、エイズとかB型肝炎とかが頭をよぎりました。注射の針で黄熱病以外の病気になったら、どう説明しても、信じてもらえないし、むしろ黄熱病の方が名譽な感じですから。幸い、私の後ろに長い列ができ、押し出されてしまい、それにフランス語が分からないため、どさくさ紛れに注射もされずに無事に検疫を通過することができました。しかし、注射はしなかったものの、

滞在中、蚊に刺されると、やけに気になりました。帰りに成田の空港で、黄熱病の注射をせずにアフリカに行ってきたが、どうしようかと訊ねたのですが、とくに何もなければ結構ですとのことでした。これまで、色々な国に行きましたが、今度のような経験は初めてです。おかげさまで、12月の末までびんびんしていますので、もう大丈夫と思います。

オウガドグウの空港は入国が厳しく、検疫の後、入国の審査、さらに警察の検査、その次には税関で全ての荷物を開けて検査します。それで解放されたのかと思ったら、出口でもう一度、軍隊の検査がありました。どうして、こんなに厳しいのか分かりませんが、誰もが同じような扱いを受けていました。幸い、パリから大勢一緒だったので、助かりました。やっと、空港の外に出て、IUFROの表示をもった人が居るのかと皆でうろうろしましたが、なかなか見つかりません。やっと、車がやってきて、IUFROのガイドが現れました。彼女の説明によると、この飛行機では誰も来ないと思っていた、とのこと。しかし、あとで参加者の名簿を見ると、ちゃんと我々はフランス航空の便で到着することになっていました。

ホテルは空港から5~6分の所でした。ホテルに着いて、さて、チェックインをして、26時間の長旅の疲れをシャワーとビールで癒そうと思ったのですが、なかなかチェックインをさせてくれません。一時間ほどロビーでぶらぶらしていると、やっと、様子が分かってきました。予約しておいたホテルの部屋が無いというのです。これには皆驚き、さっそくフランス語のできる人を立てて団体交渉をしました。ホテルの支配人が出てきて、別の高級ホテルに責任を持って部屋を取り、ホテルの宿泊費の差額は当ホテルで支払うと言うことになりました。明日には、部屋が空くので、朝には荷物を持ってきてほしいとのことでした。翌日、また、荷物を持ってホテルに行く。まだ、部屋がないとのこと、また、高級ホテルに舞い戻り、あとはこのホテルに滞在することにしました。しかし、いいこともあるのです、オウガドグウの最高のホテルに泊まることができました。ところが、ホテルの支払いが複雑になり、どっちのホテルで支払うのか、差額を最初のホテルで本当に出すのかなど、色々問題があり、全て、8人で団体交渉をすることになりました。チェックアウトの時に、案の定、問題が起こり、やっと話が分かってくれましたが、気になるので、私は、領収書を別に出して買いました。なんとなく、ホテル同士の話し合いや、複雑な支払いはできそうにないと思ったからです。

到着した日は、こうしたすったもんだ問題のため、会議どころではなくなってしまい、翌日から、理事会に出席することになりました。理事会メンバーのホテルが二カ所になったため、車の手配、会議のスケジュールなどめっちゃめっちゃでした。皆もそう思ったらしく、帰るまで、この8人は団体行動をとり、常に団体で交渉したり、食事をしたり、欧米人には珍しい行動様式でした。

出国するときも、空港の手続きは同じで、荷物は全て調べるし、大変なものです。荷物を調べるのに、カーテンのかかった小部屋に入れられ、なんとなく罪人を調べるような雰囲気です。あんまり、気持ちの良いものではありません。こんな報告をすると、問題になるかもしれませんが、国際的な国と非国際的な国とでは、外貨の流入が変わってくるのではと思います。こうした経験は政府の調査団では知り得ないことです。

起こった問題ばかりは報告にはなりません。パリからの飛行機は地中海からサハラ砂漠を越え、半乾燥地のブルキナ・ファソに着きます。まず、地中海を過ぎ、アフリカ大陸に入ると、高い山脈を越えます。頂上に雪のある山が数多くあるのには驚きました。しかも、この高地では、人は尾根筋の高地に住んでいて、南米のアンデス山脈を見ているような感じでした。この高地は地中海の湿度を遮り、フェーン現象を起こしているのだと思います。この山脈を越えると、乾燥し、次第に砂漠になります。空から見たサハラ砂漠は全くの不毛な土地です。低地になるほど、乾燥している感じがします。広大な砂漠を過ぎ、ニジュール河を過ぎると、次第に植物が現れます。オウガドグウの近くでは、いわゆるサバナで、木は生えていますが、まばらな感じです。こうした感じは、オーストラリア中央の砂漠地帯、インドのラジャースタン(タール砂漠)ときわめて似ています。インドの砂漠では、刺のあるマメ科の木がラクダの餌、屋根の材料、燃料と非常に貴重なものでしたが、このオウガドグウでも、木は大切に、農耕地にも木が必要だとのことでした。オウガドグウでは、アフリカの乾燥したところに見られるバオバブの木のほか、マメ科の木が見られます。また、インドに多いセンダン科の植物らしいものもありました。このほか、カキの原種らしいものなどもありましたが、全体的に刺のあるマメ科の植物が優占しています。ちょうど、乾期の始まりとのことで、非常に乾燥した感じでした。

オウガドグウはブルキナ・ファソの首都ですが、街から5~6分のところに飛行場があるくらいですから、街も小さく、市内見物は1時間で全て見た感じです。それでも、映画館が二つあり、帰りにパリであった日本人の

旅行者の話では、ブルキナ・ファソが作る映画は有名で、良く知られているとのことでした。立派な建物は映画館、大統領官邸、政府の建物、ホテル、銀行だけで、あとは見るものはあまりないようです。市内見物の時に、政府の建物の写真を撮らないようにと、ガイドに注意されました。中南米でも、政府の建物の写真を撮って、警察に捕まることがありますが、ここでは、日本の大使館もなく、捕まったら大変です。

街の中はオートバイと自転車があふれています。街の中に人が多いのに感心しましたが、何をして生活しているのかははっきりしませんでした。中国から地域代表理事としてでている Hong さんは中国大使館に挨拶にいったそうですが、そこで聞いてきた話では、ブルキナ・ファソの平均寿命は35歳だそうです。彼は、街で歳とった人を見かけないだろうと言うのですが、たしかに、若い人しか見かけませんでした。

このような不便なところで理事会を開いたのも、IUFROとして、アフリカの乾燥地帯の林業に何か協力することができないかと言うのが大きな理由でした。ブルキナ・ファソの研究者の発言によると、「ここでは、木材だけが木の利用ではない。むしろ、実がなって、それが食料、薬品、香料などに利用でき、幹は繊維、葉は飼料や食料、枝は燃料にできるような木が必要である。しかも、木は日陰をつくる」。一番求められているのが、木材よりも多目的な樹木の利用研究ではないかと思えます。とくに、果実、種子、葉の利用のための育種が必要です。乾燥地帯を旅行するとき、いつも感じるのですが、木の無いところで、本当に木のありがたさがわかるのではないのでしょうか。

* * *

ここまで、書いたところで、オウガドグウのホテルからフランス語でFaxが入り、何やら丁重に宿泊代を一日分払えといっているようです。こんなことになりそうな予感が当たった感じです。領収書をFaxするつもりです。

理事会の内容：

IUFROサイエンス賞

若い研究者を対象に、IUFRO Scientific Achievement Awardを世界大会の時に授与してきたが、テンペレにおいても、賞を出すことに決定した。

受賞候補者を推薦するようにとの指示されている。

推薦締め切り時期：1994年4月1日

推薦状送付先：The Chairman of the Honours and Awards Committee of IUFRO

Att'n: Dr. J. Cayford

IUFRO Vice-President
25 Burnett's Grove Circle
Nepean
Ontario K2J 1W1
Canada

成果の基準：オリジナルな森林・林業・林産業の研究成果で、学会誌等に発表されたもの、本などの出版物または特許が認められたもの。

候補資格：IUFROのメンバー機関に属する研究者で、授与式の時に45歳未満であること。IUFRO理事会メンバーおよび各ディビジョンの副部長は受賞の対象にはならない。

推薦方法：機関の責任ある人、サブジェクトまたはプロジェクトグループのリーダー、または副リーダーが推薦する。

推薦状：推薦には
名前
生年月日
勤務先住所
専門教育課程
研究歴および働いた研究機関の簡単な記載

一人以上の独立の参考人の意見

発表文献リスト、(このうち重要な対象論文については1ページにまとめる)

重要な発表論文を5つまで各要旨を10行にまとめる

地域または世界的な林業・林産業に対して貢献したことを説明した短文

ほかの科学的または専門技術上の受賞

現在の主要な研究活動

推薦人の名前

これらを同封して、上記のDr. Cayfordに送付する。

IUFRO DEVELOPMENT FUND (IUFRO 基金)

IUFROの国際集會や世界大会に出席できるように、開発途上国を援助する目的で、基金がつけられ、U.S.A., カナダ、日本、マレーシアなどが貢献し、現在、8万ドル程度集まっている。日本は比較的早い時期にIUFRO-Jの名目で約1万ドルを献金したことが有効な処置であったと思った。今後、この資金は有効に活用することであるが、基金の原資が少なく、SPDCの資金の中からマッチングファンドを出し、次の世界大会の招待費用に

することとした。財務委員、副会長、SPDC コーディネーターなどによる IUFRO 基金運用のための理事会を設立することにした。

SPDC

SPDC の活動資金が少なく、今後の活動をどうするか、議論があったが、ITTO、FAO、FORSPA、CIFOR などの国際機関との連携を強化し、IUFRO はネットワークとしての特色を生かすことが重要と思う。SPDC の活動資金に関しては、日本の外務省の支援が非常に感謝されている。また、日本の IUFRO メンバーを中心にして行われている BIOREFOR のシンポジウム活動も注目された。とくに、このシンポジウムには、林野庁予算で作られた民間企業の熱帯林再生研究組合 (RETROF) が積極的に参加していることが関心を集めた。

IUFRO の会員

現在、会員数の一番多いのがアメリカ、その次が日本であり、ドイツ、カナダがほぼ同数で 3 位、4 位となっている。今回、各国の会員の会費支払い状況の説明があり、会費未納、滞納が多いことが報告された。日本の会費未納は少ないが、それでも、2~3 の機関が 1993 年度の会費未納である。

スイスフランで納入するのは、地域によって難しいので、主要通貨であれば、何でもよいことにしてはと、提案した。また、台湾が開発途上国の会費援助をしている。

最近、色々な国際機関が森林、林業に興味を持っているが、ICRAF、IPRI が IUFRO に加盟した。CIFOR、IRRI、IGBPR などにも、加盟の勧誘を行うことにした。

IUFRO 地域区分

これまで、IUFRO の地域代表理事の偏りに関しては、かなりの議論があり、この問題に対する検討委員会が設置されている。しかし、最近の国際情勢はこうした検討よりも早いスピードで変化しているため、検討委員会の提案では収拾できない。特に、ソ連が分解し、バルト三国がソ連から離れ、東欧諸国から離れ、北欧と結びたいなど、また、東欧諸国も大きく変化している。そこで、地域選出理事は個人の資格で理事会に参加し、意見を述べる。地域の問題を掌握することは難しいため、むしろ、地域分会を作るべきだとの意見がでた。この議論の中で、日本は上手に地域の活動を行っており、IUFRO-J やら BIOREFOR-SPDC などがあると言われた。しかし、議論の雰囲気は何となく IUFRO の名前を使うためには、理事会の了承が必要な感じであった。京都世界大会の時の経緯、BIOREFOR 設立の経緯などを述べ、ネットワークを設立し、資金を導入するためには、日本では必要な組織であったことを強調した。あとで、皆の

話では、日本では、うまく行くので問題ないし、このような活動であれば、いつでも IUFRO として活動してほしい。しかし、東欧とかその他の地区では、政治的な問題となるために、地域活動は難しいとのことだった。

このような議論の結果、各ディビジョンの代表と地域の代表を勘案して選ぶこと、ディビジョンの代表が地域の代表を兼ね、地域間のバランスを図ることにした。

アフリカの森林・林業に関する IUFRO の貢献

アフリカで理事会を開催した意義はこの地域の森林問題に IUFRO が貢献することである。理事会最終日に、かなりの時間をかけて議論をしたが、各ディビジョンからプロジェクトの提案をして貰うことになった。多目的樹木の開発育種などの問題が提案される可能性が高い。

テンペレの世界大会 (フィンランド)

開催期間：1995 年 8 月 6~12 日

8 月 6 日：レジストレーション

8 月 7 日：開会式、講演会、全体会議、歓迎懇親会

8 月 8 日：講演会、部会、ポスター

8 月 9 日：講演会、全体会議、午後見学

8 月 10 日：講演会、部会、ポスター

8 月 11 日：講演会、全体会議、部会、さよならパーティー

8 月 12 日：閉会式、午後、旅行出発

大会後の見学旅行は 18 グループあり、北欧を中心に見学する。

参加費は 1995 年 5 月 1 日以前に申し込むと、US \$309、同伴者 \$77

1995 年 5 月 1 日以降、US \$361、同伴者 \$112

ホテルは十分に確保しているが、さらに安い民宿もある。

なお、この世界大会には、講演者として、各界の有名人を考えているが、日本の工業界から、有名人を招待することも考慮中とのことだった。

次の理事会

次の理事会は 1994 年 10 月 2 日から 2 週間、中国で開催することに決まった。

さらに、1995 年の理事会は 5 月にロシアで開催予定であったが、政治的な事情が不安定のため、ロシアが辞退した。このため、1995 年の理事会はスペインになる予定である。

2000 年の世界大会

現在まで、マレーシア、インドネシア、インド、中国、チリ、ブラジル、台湾、フィリピンなどが立候補している。次回の中国の理事会で決定する。

これからの研究集会予定 (IUFRO News Vol. 22, No. 4 より)

IUFRO の研修集会

Division 1

S2.06-14 (複合病): Climate Factors and Fungal Diseases in Broadleaved Trees Decline (広葉樹の衰退にかかわる菌類病と気候要因) /June 14-16 1994, Banska Stiavnica Slovakia

S1.02-06 (立地区分・評価): Canadian Forest Service; Ontario Ministry of Natural Resources: Global to Local, Ecological Land Classification (地球規模から地域までの生態的土地区分) /Aug 15-17 1994, Thunder Bay, Ontario Canada

S1.05-04 (植物材料の特性); S2.01-00 (生理学); S. 3.02--03 (苗畑作業): Making the Grade (等級づけ) /Sep 13-16 1994, Sault Ste. Marie, Ontario Canada

P1.10-00 (ブナの育種と造林): 5th Beech Symposium (第5回ブナ林に関するシンポジウム) /Sep 19-24 1994, Denmark

S1.01-08 (ヨーロッパモミの生態と造林): 7. Weipfannen-Symposium (ヨーロッパモミに関するシンポジウム) /Oct 31-Nov 3 1994, Altensteig Germany

Division 2

S2.06-04 (針葉・葉の病害); S2.06-02 (針葉樹の胴枯れ・枝枯れ病): Shoot and Foliage Diseases in Forest Trees (林木における枝と葉の病害) /Jun 6-11 1994, Vallombrosa Italy

Division 3

P3.07-00 (収穫, 木材運搬, 利用); P3.06-00 (間伐の経済学と収穫); P3.03-00 (労働科学); S3.06-00 (山岳条件での森林作業); P3.08-00 (森林作業と環境保護); COFE: Advanced Technology in Forest Operations: Applied Ecology in Action (森林作業の実施段階にある先進技術: 応用生態学) /Jul 24-29 1994, Portland, Corvallis, Oregon USA

P3.04-00 (小規模林業): Private Forestry-Changes and Challenges for Countries in Transition (民有林-変遷過程にある国々のための, 変換と問題点) /Aug 29-Sep 2 1994,

Division 4

S4.11-00 (統計手法, 数学, コンピュータ): Forest Models with Reference to Statistical Methods (統計手法に関するフォレストモデル) /Apr 24-27 1994, Moscow Russia

S4.02-03 (継続的森林資源量調査): Mixed Stands-Research Plots, Measurement and Results, Models

(混交林試験地, 測定, 結果, およびモデル) /Apr 25-29 1994, Lousa/Coimbra Portugal

S4.02-00 (森林資源量調査とモニタリング); S4.04-00 (森林経営計画・経営経済学); Virginia Polytechnic Institute and State University; American Society for Photogrammetry and Remote Sensing: Spatial Accuracy of Natural Resource Data Bases (天然資源データベース空間的精度) /May 16-20 1994, Williamsburg, VA, USA

S4.02-00 (森林資源量調査とモニタリング); Western Forestry and Conservation Assoc.; World Forestry Institute: SIT'94-Stand Inventory Technology for Forest Ecosystem Management (SIT'94-森林生態系管理のための林況調査技術) /Jul 11-13 1994, Portland, Oregon USA

S4.04-00 (森林経営計画・経営経済学); Agricultural University of Vienna, Austrian Federal Government Forests, Foresters Society for Niederst. u. Burgenld.: Alternative Methods for Purposes of the Management in the Experimental Forest (実験林管理のための二者択一的手法) /Sep 5-8 1994, Forchtenstein, Burgenland Austria

S4.11-00 (森林経営計画・数学・コンピュータ): Decision Support-2001/Sep 12-16 1994, Toronto, Ontario Canada

S4.00-00 (資源量調査・成長・収穫量・量的・経営科学): Growth and Yield of Tropical Forests (熱帯林の成長) /Sep 27-Oct 1 1994, Fuchu, Tokyo Japan

S4.02-00 (森林資源量調査とモニタリング); The International Society of Tropical Foresters: Resource Inventory Techniques to Support Agroforestry Activities (アグロフォレストリー支援のための資源調査技術) /Oct 1994, Palampur, Himachal Pradesh India

Division 5

S5.01-04 (木材特性の生物的改質造林と材質の関係): Connection Between Silviculture and Wood Quality Through Modelling Approaches and Simulation Softwares (モデル化とシミュレーションソフトを通じた造林と材質との関係) /June 13-17 1994, Hook Sweden

S5.04-08 (機械加工): Wood Machining Institute: CIFAC'94-Second International Symposium on Computers in Furniture and Cabinet Manufacturing (CIFAC'94-家具製造におけるコンピューターに関する第2回国際シンポジウム) /Aug 23-24 1994, Atlanta, Georgia USA

Division 6

S6.06-00 (森林研究の運営): Management of Forest Research: Emerging Trends (森林研究管理: 新しい傾向) /Sep 5-7 1994, Cape Town South Africa

その他の研究集会

SUPCON International; World Bank; EPRI; World Resource Review: 5th Global Warming International Conference and Exposition (第5回地球温暖化国際会議および展示会) /Apr 4-7 1994, San Francisco, California USA

European Forest Institute: Introduction to Stochastic Analysis with Applications (応用的確率分析の紹介) /Mar 7-11 1994, Koli National Park Finland

?: Global Change Conference (地球変動会議) /May 23-27 1994, Woods Hole, Massachusetts USA

Institute of Forest Ecology, Eberswalde; Centre for Agricultural Landscape and Landuse Research, Mncheberg; Technical University Cottbus; C.I.E. C: Agroforestry (アグロフォレストリー) /May 30-Jun 2 1994, Berlin Germany

Foundation for Primary Forest Protection: International Conference on Ecology and Environment (生態学と環境の国際会議) /Jun 20-24 1994, Drake Bay, Peninsula de Osa Costa Rica

ECF/FAO/ILO: Ministry of Labour; Ministry of Agriculture and Forestry; Kuopio Regional of Institute of Occupational Health: Clothing and Safety Equipment in Forestry (林業における安全装備と衣服) /Jun 27-Jul 1 1994, Kuopio Finland

?: DNA Fingerprinting of Populus for Clonal Identification (クローン識別のためのポプラ DNA フィンガープリント) /Aug 9-12 1994, Washington, Seattle USA

The Royal Forest Department of Thailand; IUFRO; The Food and Agricultural Organization; The Forest Research Support Program for Asia; The Canadian International Development Agency, The United States Forest Service; Forestry Canada: Measuring and Monitoring Biodiversity in Tropical and Temperate Forests (熱帯と温帯における生物多様性の測定とモニタリング) /Aug 28-Sep 3 1994, Chiang Mai Thailand

?: First Airborne Remote Sensing Conference and Exhibition (第1回航空機遠隔探査会議と展示会) /Sep 11-15 1994, Strasbourg France

International Society for Photogrammetry and Remote Sensing: Resource and Environmental Monitoring (資源と環境のモニタリング) /Sep 26-30 1994, Rio de Janeiro Brazil

Forestry Department of Ministry of Agriculture of

the Czech Republic; Forestry and Game Management Research Institute Jiloviste-Strnady: Effect of Global Climate Change on Boreal and Temperate Forests (寒帯林と温帯林における地球気候変動の影響) /Oct 10-13 1994, Jiloviste Czech Republic

機関代表会議のご案内

平成5年度ユフロ-J機関代表会議を下記のように開催しますのでお知らせします。

記

日時: 平成6年4月5日(火) 12:00~13:00

場所: 東京農工大学農学部 木館2階第2会議室

議題: 1) 平成5年度事業報告

2) 平成5年度会計報告

3) 会計監査報告

4) 平成6年度事業計画

5) 平成6年度予算案

6) その他

各機関には万障お繰合せのうえ、御出席下さるようお願いいたします。

<IUFRO-J Newsの原稿を募集しています。>

IUFROの研究集会等の開催予定や、参加報告など、会員にお知らせしたい記事をお寄せ下さい。また、研究集会等に参加された方を御紹介戴けば、事務局から執筆をお願いすることもできます。IUFROの情報をも効率的に交流するために御協力をお願い致します。(事務局)

IUFRO-J News No. 51

平成6年3月18日

(編集・発行)

国際林業研究機関連合日本委員会事務局

茨城県稲敷郡基崎町松の里1 森林総合研究所内

TEL 0298-73-3211 (232)